

全国巡回バドミントン講習会

バドミントンキャラバン 2019in 愛知 報告書

バドミントンのさらなる普及と指導者のコーチング技術、ジュニアの技術向上を目的として、5年間で全国47都道府県をめぐり実施される「バドミントンキャラバン in 愛知」が1月19日に豊田市西部体育館で実施された。(今年で2年目14番目の開催)

合計でちょうど200名の参加者があり、大変盛況でバドミントンへの関心の高さを強く感じた。実施された内容は、開講式の後、未来創造アカデミーI回生の学生からバドミントン、そしてスポーツそのものの意義を説く話をしていただき、SJリーガーであるジェイテクト所属選手による模範試合を観戦した。その後午前中は「初めてのバドミントン教室」「ジュニア教室」「指導者講習会」の3つの教室に分かれてそれぞれの活動を行った。昼休み前に全参加者でロンドンオリンピックにも出場されたYONEXの佐藤冨香さんと梶野尾悦子さんとの対話形式での講話を聴き、午後は指導者講習会受講者からジュニア教室の受講者に午前中の講義の内容を伝達する形で実技講習が実施された。

・オリンピック学習 佐藤冨香さん(ヨネックス) 講話

ロンドンでは今までにない緊張の中家族や仲間の声援を受けて予選を突破した。決勝トーナメントで今まで勝ったことのないデンマークの選手にリードを奪うが試合の中で前十字靭帯断裂という大けがを負うが、痛みをこらえて戦ったという話に感嘆した。そのほかにも選手としてフィジカル、メンタル、栄養面様々な形でサポートを受けながらバドミントンに取り組むことができることへの感謝の思い、子供たちに18歳までにしっかりとからだを作ることの大切さなどを話していただき、参加者一同頷きながら傾聴していた。また代表合宿での他の選手たちの様子の話には皆興味津々であった。最後には子供たちからたくさんの質問も飛び交った。

・はじめてのバドミントン教室 鎮田頼宣(日本バドミントン協会)

ほぼ初めてバドミントンに触れる子供たち53名が参加した。立てたラケットを倒れる前にキャッチしたり、7個のシャトルを4人で取り合ったりといったゲームで楽しみながら体を温め、シャトルすくいやシャトルキャッチを通じてラケットの扱いに慣れていった。手投げノックで実際にシャトルを打っていったが、どの子もわかりやすいアドバイスを受け中ですぐに上手に当てることができるようになっていった。最後は指導者との半面ラリーで締めた。終わった後には多くの子供たちが「またバドミントンをやりたい人」という質問に元気よく手が上がった。

・ジュニア教室 糸川拓哉(日本バドミントン協会) 中口直人(愛知県バドミントン協会)
指導者講習会 渡辺雅弘(日本バドミントン協会)

ジュニア講習会には県内各地のジュニアクラブチーム、部活動などで活動する108名の参加者があった。午前中はドライブの技術向上に主眼が置かれた。2球を使った練習など普段やりなれないことに四苦八苦しながらも次第に上達していく様子が印象的であった。同じ時間帯には39名が集まった指導者講習会の座学の部分が日本バドミントン協会普及指導開発部の渡辺雅弘さんによって行われた。初めにティーチングだけではなくコーチングをする、すなわち選手自身による動機づけ、成長を引き出す教え方が大切であるということが伝えられた。その後「筋肉の力の伝達の仕組み、骨格モデルを使って体にピラー（柱）を作ることの重要性などの話があり、物理の先生らしいわかりやすい説明と新たな発見に参加者一同感心しきりだった。

午後にはこの指導者講習参加者がジュニア教室参加者を指導する形の合同講習会が実施された。午前中に作成した人体の骨格モデルを使って体をどう使うべきか、ピラーを立てることの大切さを指導者講習会参加者から子供たちに伝え、その意義を頭に入れながら実技練習を行った。実技ではメディシンボールを使ったトレーニング、ピラーを意識した手投げでのスマッシュノックなどを行った。最後には佐藤さん、ジェイテクトの選手らも交えて半面シングルスを行い子供たちも嬉々としてプレイしていた。

丸一日の実施となったが、充実した内容にあったという間の時間であった。全イベントが終了した後も子供たちは興奮冷めやらず佐藤さん、ジェイテクトの選手らにサインや写真を求める行列が出来ていた。これを契機にバドミントンへの裾野が広がり、バドミントン熱がさらに高まり盛り上がっていくことを願う。



